



魔法少女に憧れる学生のミリアは  
変身ステッキを買ったために近所のおせちや屋に来た



ミリア「ロリキュア変身ステッキくださいー！」

店主「おや、ミリアちゃんじゃないか。お金は貯まったのかい？」

ミリア「うんーおばあちゃんからおこづかいもらったんだ！」

店主「それはよかった。このステッキずっと欲しがってたもんね。

町の平和はミリアちゃんに任せよう！」

ミリア「わかったー！」



ミリアについて買った〜♪

これでミリアもロリキュアになれるんだ!!

まずは説明書を読まない!! って、まだ習っていない

漢字がたくさんあって読めない!! まあ使えばわかるよね

悪い人ってどこにいるのかなあ?

暗くなつてから帰ると怒られるし、パパとママが寝てから

こっそり家を抜け出して探そうって!!

その日の深夜



「ミリア」全然見つからないなあ、明日も学校あるし帰ろうかな...

あつ！あそこに人がいる！  
こんな時間に公園にいるなんて怪しい...  
でもまだ何かしたわけじゃないし...  
とりあえず話しかけてみようかと！」

「ミリア」おじさん何してるの？」

「おじさん」ん？ああ、家に居場所が無くてね！帰りたくないんだよ  
「キミこそこんな夜遅くに出歩いて大丈夫なのかい？」



「ミリア」平気だよ！ミリアは町の平和を守るために  
パトロール中だから！

「このおじさん悪い人じゃなさそうだし、一人で寂しそう」  
「せつかく公園に来たし、ミリアと一緒に遊んであげようか？」

「おじさん」本当かい？それならおじさんの秘密基地に行こう  
「ミリア」秘密基地？なにそれ！連れて行って〜」



「ミリア」秘密基地つて……この男の子のトイだよな。  
「ミリアがいて大丈夫なの？」

「おじさん」この時間帯は誰も来ないから問題ならぬ」

「ミリア」ならいいけどー何して遊ぼうか？」

「おじさん」お医者さんごっこがいいんじゃないかな。

「おじさんが子供の頃はよくやったんだよ。ミリアちゃんが  
病気になるてないか調べてあげるから服をめんついでに」





男はミリアの敏感な割れ目に指を這わせ、脳内に初めての感覚を刻み込んでいく。

ミリア「んっ♡あっ♡ちよつと…はうっ♡」

おじさん「どうかしら？」

ミリア「うう…なんかソコ触られるとへんな感じするの…」

おじさん「それはマッサージが効いてきている証拠だよ。神経が集中してこの部分を  
びっぴりと刺激していくと…ほら、毒素が染み出して来た」



あ…

ん…♡

たゆん♡

たがん♡

びっぴ

むに…♡

むに…♡

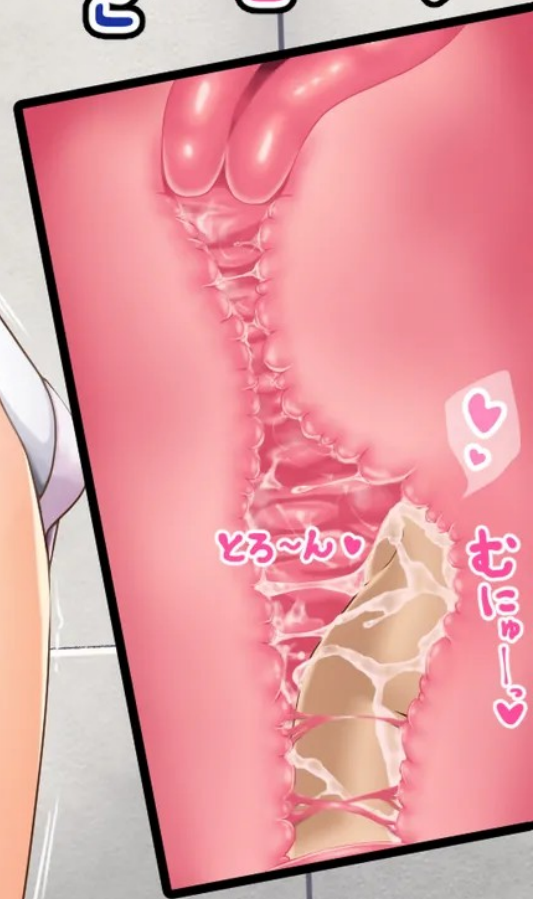
びっぴ

ミリア「んあ…♡ほんとだ…でもパンツ汚したらママに怒られちゃう…」  
おじさん「じゃあ脱いじゃおつか。そうすれば内側からほぐせるじゃね」

愛液でトロトロになったら、ミリアのマンコに男の指が挿入される。気持ちいい部分を圧迫され、じんわりと快感が広がっていく。

「ミリアはうっ♡指い…入っちゃってる…んっ♡」  
おじさん「ミリアちゃん、腰が動いてるよ。」

止まってくれないと治せないじゃないか！



「…ミリア「ううん…身体が勝手に動いちゃうんだもん…はやく終わらせてよお…」

経験したことの無い快感から逃げようとする三ツツ子だったが  
ぶつくりと膨れ上がったクリトリスを掴まれ  
ねっとりとしたイジメられてしまう。

三ツツ子「んっ♡だめっだめなのぉ…♡」

「そいつ弱いところだからあつ…つまんじやあつ♡♡」

おじさん「三ツツ子ちゃんはクリトリスをいじられるのが

好きなんだね。いけない子だなあ」



クリトリスを守っていた包皮は男の手によって強引に剥かれ  
露出したところの敏感な部分を刺激されてしまう。  
三ツツ子「あひっ♡直接触るのしつこすぎなの♡♡手ついかすのやめてえ♡♡  
マッサージも充分だからあ♡我慢できなくなっちゃったあつ♡♡」

ガクガク...

ゾクッ...

我慢の限界を迎え、お漏らししてしまっただけなら情けなら言を上げながら  
全身を震わせ快感に身を任せたら。  
辺りには男の興奮を誘うシーンと化した身らが充満してらる。

「ミリアちゃん……んっ……あぁっ……♡」

おじさん「おいおい、おじさんの身体がびしょびしょに濡れちゃったじゃないかッ！  
どうしてくれるんだよッ！」



「ミリアちゃん……んっ……あぁっ……♡」  
おじさん「おいおい、おじさんの身体がびしょびしょに濡れちゃったじゃないかッ！  
どうしてくれるんだよッ！」

ニリアはまだ温もりが  
残るパンツで男の股間を  
撫でまわす。

おじさん「おまへ♡ニー♡  
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡  
ちやん♡♡♡♡♡」

ドキッ

グググッ...

さわさわ...

プルプル

ほとんど濡れていない股間を執拗に拭かせる男に  
違和感を感じたものの、汚らわしいしまった罪悪感から断りきれない。  
「ニリア「えっ♡ちやん♡さわさわ♡思っ♡ん♡だ♡は♡せ♡♡♡」  
おじさん「んっ♡あぁ、でもまだ中が濡れてるんじゃないか？  
全部綺麗にしてもらわないと困るよ」

う...

ドキ♡

ドキ♡

柔らかいパンツの感触は男の性欲を刺激し、股間はみるみる膨張し出す。





豹変した男はミリアの頭部をガツチリと掴み  
逃げ場を無くした喉奥にチンポを突き刺す

「ミリア、何してんのさあ〜」

「おっさん、うらやうら〜」  
「おまをっけはたまんねえなッ」

グホッ

ドクッ

ビクッ

ん〜くッッ!!

ドクッ

グググッ!!

ビクッ

ドクッ

「おっさん、うらやうら〜」  
「おまをっけはたまんねえなッ」

「おまをっけはたまんねえなッ」  
「おまをっけはたまんねえなッ」







おじさんこんな極上ロリまんじが目の前にあるのに

使わないで帰すわけねーだろッ!

ギラついた視線が自分の股間に注がれてくるのじつじき  
ミリアは本能的に男の思惑を察する。

ミリアだ、だめえッ!!そんなおつきいの入らないのおツ!!

今やめてくれたらミリアにいじわるしたこと

ママに言わないであげるからっ!!

おじさん「ハッハッハ!! 俺はこのままだとミリアのママに

懲られちゃうのか?それは怖いなあ(棒読み)」



だめえ...♡

ドキ♡

ドキ♡

ゴクッ...

ドキ♡

たゆん♡

ムチッ♡

ぬらぬら...♡

ねとが...♡

ムチ...♡

ビギッ

ビギッ



パンパンに張った亀頭がミリアの未使用ロリまんこに挿入される。

ミリア「いきいッ?んあッちめッ!!ぬいてえッ!!」

おじさん「ぐおおおおッ!!なんつー狭さッ!!さすがロリまんこだッ

ギッチギチに肉ひだが詰まってやがるッ!!」

ミリア「むりなのおッ!!おつきすぎるからあッ!!」

フーッ!

いぎっ!!

フーッ!

フーッ!

うぐっ...

ピクッ

ピクッ

ピクッ

ネメ...

ズブ ブ...



ピクッ

おじさん「なーが無理だよッ!!とろっとなにマン汁溢れさせやがってッ!!  
俺とのセックスが待ちきれなかったんだろッ!!」  
ミリア「んほおッ!!ちがうからああッ!!やめてえ!!  
中にッ硬いの入ってきてるのおッ!!フーッ!!フーッ!!」

子宮口まで到達したチンポは周囲をねちねちくぐり圧迫し  
ミリアの未発達な快楽神経を刺激して行く。  
ミリア「おぐッ!!奥にあたってからあ!!行き止まりなのお!!  
押し込まないでええッ!!」

メススイツチを入れられたロリまんこはうなうなとチンポに絡みつぎ  
その形状を記憶し始める。  
ミリア「おぐッ!!んおッ!!へんなかんじするからッためっ♡だめっ♡♡」  
おじさん「フーッ!!フーッ!!かなり馴染んできたなッ  
そのその俺も楽しませてもいいからッぞ!!」



男はオスとしての本能に従って交尾を開始し、凶悪な形をしたカリで  
膣内を掻きまわしてミリアの思考力を鈍らせる。

ミリア「おほっ♡ゆっ♡りっ♡はやいのだめっ♡バカになっちゃうからあ♡♡」  
おじさん「ハアッハアッハアッ♪♪♪♪でもねー気持ちよさだツメスガキのくせに  
精液搾り取るっ♡♡♡♡ときやがっ♡♡絶対種付けしてやるから  
覚悟しとけよツッ♡♡♡」

はー♡

ぽん♡

だめえッ!!

ビクッ♡

はー♡

はー♡

ミリア「たーねっ♡ふー♡んっ♡ふー♡おおッ♡」  
おじさん「赤ちゃんの素を注ぐっ♡♡♡♡だよッ♡」

ミリア「中にある赤ちゃんの部屋にたっ♡ふり♡なあ♡ツッ♡♡♡」  
「ミリア」やだッやだッ!!赤ちゃんやだあッ!!奥だめなのおツ!!ぬいてえッ♡♡」

ぽん♡

ビクッ♡

ポコッ!!

ズチ♡

ズチ♡

ヌチャッ

ヌチャッ

ビクッ♡

ビクッ♡

快楽に支配されつつあったミリアは、種付けされるといってピンチから抜け出すために必死に抵抗する。  
しかし、ミリアが抵抗すればするほどチンポの硬度は増し、射精の準備が進んでいった。



おじさん「まさかメスガキとおまんこでできる日が来るとはなあッ!!  
生きてりゃいい事あるもんだぜ」

「おまんこは自分のまんこから垂れこぼる精液を見て涙を流す」

「おじさん「なんで...」...なんで...」

「おじさん「なんで...」...なんで...」

「おじさん「なんで...」...なんで...」



あひっ...

あひっ...

あひっ...

はっ...

あひっ...

あひっ...

あひっ...

あひっ...

あひっ...

ブルッ

ゴポッ

あひっ...

ドロッ

あひっ...

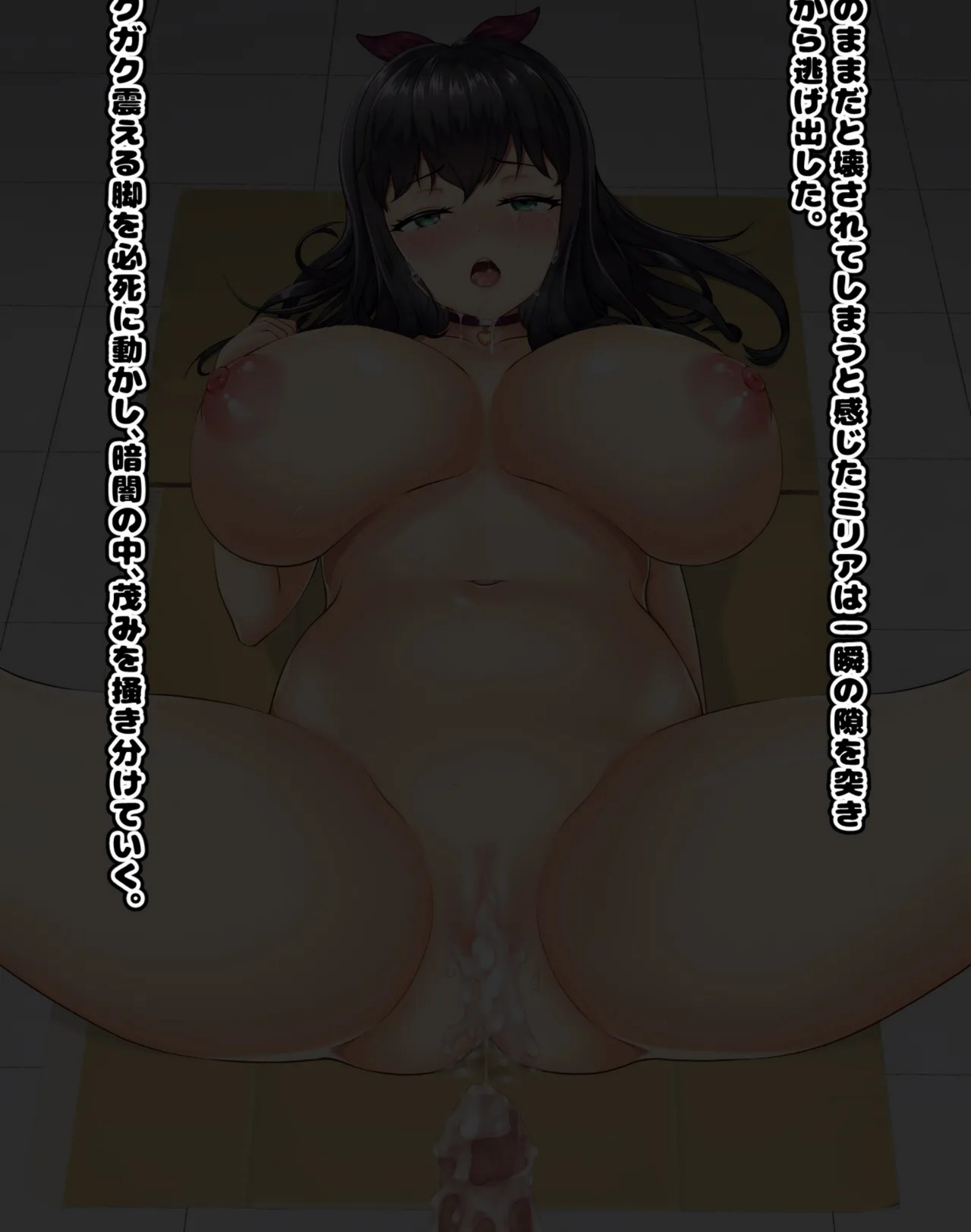
ねと...

あひっ...

ブルッ

このままだと壊されてしまおうと感じた三ツツは一瞬の間を突き男から逃げ出した。

ガクガク震える脚を必死に動かして、暗闇の中、茂みを掻き分けていく。



「ミリア」はあッ…はあッ……なんとか家まで帰ってこれた  
やっぱりあのおじさん悪い人だったんだ…



今日のことママとパパに言ったら、ミリアが夜遅くに  
出歩いてたことがバレて怒られちゃうわね…  
外で遊ぶの禁止とか言われたらどうしよう…  
内緒にするしかないかな…」

無事帰宅できた安堵感からか、ミリアは背後の気配に気づく  
ことができなかった。

「ママ…パパ…ミリアの家か……まだまだ楽しんでるんだな」

翌日 学校

ミリア「昨日は何で変身できなかったんだらう」

変身できてたらおじさんをやっつけられたのにつ!!!」

ミリアは分からない漢字を調べながらステッキの説明書を読み進めていく。

「魔法少女変身ステッキ」

このステッキを持っていると感度が高まり  
痛みに強くなります。

裏面に記載されているセリフを読み上げた後に  
スイッチを入れると魔法少女に変身できます。

※変身には太陽光を利用した充電が必要です。



ミリア「充電してからじゃないと使えなかったんだ」

セリフも覚えたいし、これでいつ悪い人を見つけても戦えるね!」

キーンローンローン

ミリア「あつ授業が始まっちゃう!!準備しないと!!!」

ミリア(結局昨日はお風呂に入れなかったし汗で身体がベタベタしてる!!  
そういえばおじさんが種付け? ってやつでミリアの中に出した赤ちゃんの素は  
洗えてないし、まだ中に残ってるのかな!



どきどき

どきどき

ぽよんっ♡

たぷ〜ん♡

赤ちゃんできちゃつたらミリアはあのおじさんと  
結婚しなきゃいけないの? 絶対にイヤだよっ!!  
ミリアは男の精液を挿き出すため、自分の股間に手を伸ばす。



ムチッ

むぎむぎ♡

むぎむぎ♡

ムチッ

ムチッ

ミリア(んっ...あっ...♡昨日おじさんにいじられたとウソが凄まじい感じがする...)  
瞳内から早く精液を取り除かなければいけなはずのミリアの指はぐにぐに止まり、快楽を求め始めた。  
ミリア(はっ...うっ...うっ...♡タマはウソなの...)  
せわしの我慢できな...)



ミリア(うっ...あっ...♡なんでこんなにきもちいのおっ...!! せになっっちゃうっ...♡)  
勃起したクリトリスを刺激するとどじわどじわとした甘い感覚と共に瞳からねばついた愛液が漏れ出す。  
覚えたての自慰行為に夢中になってしまったミリアは、パンツにできた染みに気づき急いで脱ぎ始めた。









まばゆい光がミリアの身体を包み込み真の姿が現れる。

ミリア「響える機械の音色ッ キュアバイブッ!!」

おじさん「キュアバイブッ!! その格好!! お前魔法少女だったのか?!

クソッ油断した!! 俺が悪かった!! 見逃してくれえ!!」

ミリア「もう遅いよっーミリアがやめてっ言ってもやめてくれなかったんだから!!

悪い人は絶対に許さないっ!! うりやーっ!!」

ミリアの鋭い一撃が男の腹部に衝撃を与える……ハズだった。

ミリア「はっっっ

あれ…? なんて倒れないの……っ」





「ミリアちゃん... なつなで...」

「魔法少女が負けるなんてありえないのだから...! 早く放してよ...!」

「おじさん! フハハハ...! どうせやがって...! 變身しても肌の露出が増えただけで...!」

「能力は女児のままじゃねえか...!」

「男はミリアの正拳突きを受け止めた後、硬直する少女を膝々と抱き上げ、家の中に押し入れたのだ。」

「バタバタ」

「いや...!」

「ガシッ」

「だめ...!」

「ゴキッ」

「わん...!」

「グッ...」

「ドクッ」

「ムムム」

「グイッ」

「グキッ」

「...!」

「おじさん! 俺はもうさっさと引退したな...!」

「魔法少女を捕まえて、ミリアちゃんを救ってやる...!」

「男はミリアの太腿を掴んだ。カチカチと動かしだした。ミリアは...!」

「おじさん! ミリアちゃん...!」

「...!」



「ミリアちゃん、おっぱい...」

「ミリアの予想に反し、パンパンに張りつめた亀頭が向かった先は、マニッパではなく、アナルだった。」

「おっぱいをさすな、マニッパだったのかもしれないが？」

「ミリアは交尾を期待してたのかもしれないが、まずは俺を殴ったことに対するお仕置きが必要だよ。」

「ドキッ」

「ドキッ」

「ぷるんっ♡」

「ぷるんっ♡」

「ズリ」

「ヌルッ...」

「ユルッ!!」

「ミリア、おっぱい、おっぱい...」

「チンポは杭のようにアナルに突き刺さり、メリメリと押し広げながら内部に入っていく。」





「ミリアはあんなにため息... そんなにうまいの?」

「ミリアの言葉は男の国がすんぽは精液を出して多め。」

「おじさん、うやうやしい... ミリアはあんなにため息...」

「ミリアの精液は... あんなにうまいの?」

「ミリアはあんなにため息...」

オホッ!!

あんなに...

ハグッ

ハグッ

ハグッ

ハグッ

ハグッ

グッ...

グッ

ブルブルッ

ブルブルッ

ブルブルッ

「おじさん、うやうやしい...」

「ミリアはあんなにため息...」

「おじさん、うやうやしい...」

「ミリアはあんなにため息...」

「間接的にポルチオを刺激されたマンコは...」

「チンポを受け入れるための準備を整えていた。」

チンポを勢いよく引き抜かれたアナルからは「恥ずかしい音と共に  
精液が漏れ出し、辺りにオスの香りを充満させる。

「アナルが...が...が...♡ だめえ...きいちゃだめなのか...♡ じまらなごらあ...♡」



おじさん「入前でアナルから精液垂れさせて恥ずかしいならならぬかおめ♡  
これが平和を守る魔法少女の姿か...」

「アナルが...が...が...♡ だめえ...きいちゃだめなのか...♡ じまらなごらあ...♡」

男はベシツの上下ミミツを押し倒し、熱くなったチンポをマンコにはさじこめ、挿入を繰り返す。  
おじさん「まったく！ 脳みそはガキのくせになんだこのエツロい乳と尻はツ！！  
加えてアナルも極上って男に奉仕するためだけに生まれてきたんだなツ！！」  
「ミリア「うーうー…そんなことないもん…」 おじさん「なんて大っ嫌いだから早く離れてよお…！！」  
おじさん「フハハハツ！！ マンコをヌルヌルに濡らしながら拒絶しても説得力がないんだよツ！！  
スケベ汁出すのを止めないと割れ目にチンコが吸い込まれちまうぞ！！」



「ミリア」それだめツだめなのツ 妻になつちやうやつだからあ！！ 戻れなくなつちやうからムリなのお！！  
求めてはいけないと頭で分かっているもミリアの幼いマンコは 懸命に愛液を分泌させチンポを迎え入れる。



「ミリア」それだめツだめなのツ 妻になつちやうやつだからあ！！ 戻れなくなつちやうからムリなのお！！



おじさん「ららら〜♡」  
 ミリア「ぶーッぶーッ!! つよすぎるからッ♡」  
 おちんちんのごとしが考えられなくなっちゃうから♡  
 自分の指とは比べ物にならないサイズのチンポにふっ♡  
 おじさん「腫肉がじゅるじゅる絡みついてるッ♡」  
 ミリア「ぶーッぶーッ!! だすげでっ♡」  
 おっ♡♡♡  
 ららら〜ズバァッ!! 抜いてえッ♡  
 「ぶーッ!!」



おじさん「いの股に付きて♡」  
 ミリア「ちがうッ♡」  
 いらないからあッ!!  
 ちんポの味覚えやがってッ!!  
 変態メスガキがよおッ!!  
 おほッ♡  
 おちんちんなんてッ

男は三ツアアの反応を確かめながら腰を振り始める。

三ツアア「だーっ!!だめえッ!!それやらあ♡ だめなどにあたってからあ♡ ういぢやだめえーっ♡♡」

おじさん「フーッ!!」二度と反抗できないようにしっかりとつかりイキ痛付けてやらねえとなあッ!!」

三ツアアは襲っていくの快感から逃げようと思死にもがくが、男の貪るような腰振り(は弱点を的確に捉え、アタクメを引き出そうとしてくる。

おじさん「ハアッ!!ハアッ!!ハアッ!!」ウオオオオオオッ!! ◎学生とする交尾最高ッ 交尾最高ッ!!」

パン

パン

パン

フーッ!!

ゆめこ



おじさん「ハアッ!!ハアッ!!ハアッ!!」ウオオオオオオッ!! ◎学生とする交尾最高ッ 交尾最高ッ!!」

パン

ズブ

ドチュ

ヌチャ

ズパン

おじさん「ハアッ!!ハアッ!!ハアッ!!」ウオオオオオオッ!! ◎学生とする交尾最高ッ 交尾最高ッ!!」







おじさん「あー全然出し足りねえわッ!!　ロリまんこを前にするとムラムラが止まんねーのよッ!!  
まだまだ時間あるし、たっぷりチンポで騎けてやるからな……ッ」

萎えることのない男による交尾地獄はミリアの身体にアクメを刻み続けた。  
その強すぎる快感は未成熟なミリアの精神を屈服させるには十分なものだった……。









おじさん(オジサン)!! オナホのお前に赤ちゃん汁注いでやってるんだから 隠れて黙り干せよオジサン!!



おじさん(オジサン)!! オナホのお前に赤ちゃん汁注いでやってるんだから 隠れて黙り干せよオジサン!!



ミリアを固定するようには覆い被さった男はぐっぐりと腰を揺らし  
腫肉の感触を楽しみながら奥まで突き入れる。

「ミリア」がきゅんきゅん♡♡♡ じわじわ♡♡♡ おちちをほじくすきゅんのおお♡♡♡  
「ミリア」がきゅんきゅん♡♡♡ じわじわ♡♡♡ きゅんきゅん♡♡♡ ぐんぐん♡♡♡  
「ミリア」がきゅんきゅん♡♡♡ じわじわ♡♡♡ きゅんきゅん♡♡♡ ぐんぐん♡♡♡

んおー♡♡♡

ユツツ

ドチ

ヌヌ

ぐちゅ♡♡♡

きゅん♡♡♡

んお♡♡♡

んお♡♡♡

ギョギョに勃起したオシロイは中腰の廻りをするおちちの尻に  
快楽神経を刺激する。

おじさん「ハァッハァッ」 女魔界のイカグサに凝縮したオシロイを  
小作りセックスやばすぎたな♡♡♡ 尻を打たれたおちち  
めっちゃ痛めつけてきやがね♡♡♡

男は離りのついた野のように本気交尾を開始する。

ミコア「あゝ♡♡♡ ミコアの精液が子宮に注がれちゃって、子宮が震える♡♡♡  
激しいのだめさ♡♡♡ イクの止まんなくなっちゃうからめっちゃ気持ちいい♡♡♡  
おお♡♡♡ イグ♡♡♡ イグ♡♡♡ イグ♡♡♡ フー♡♡♡ フー♡♡♡  
おちんぼスボスボきもちいのおお♡♡♡ まだイチヤウウ♡♡♡ イグ♡♡♡ イグ♡♡♡  
本気交尾しゅこ♡♡♡

パン

ズチヤッ

イグ♡♡♡  
イグ♡♡♡

ぬほ♡♡♡

ズチヤッ

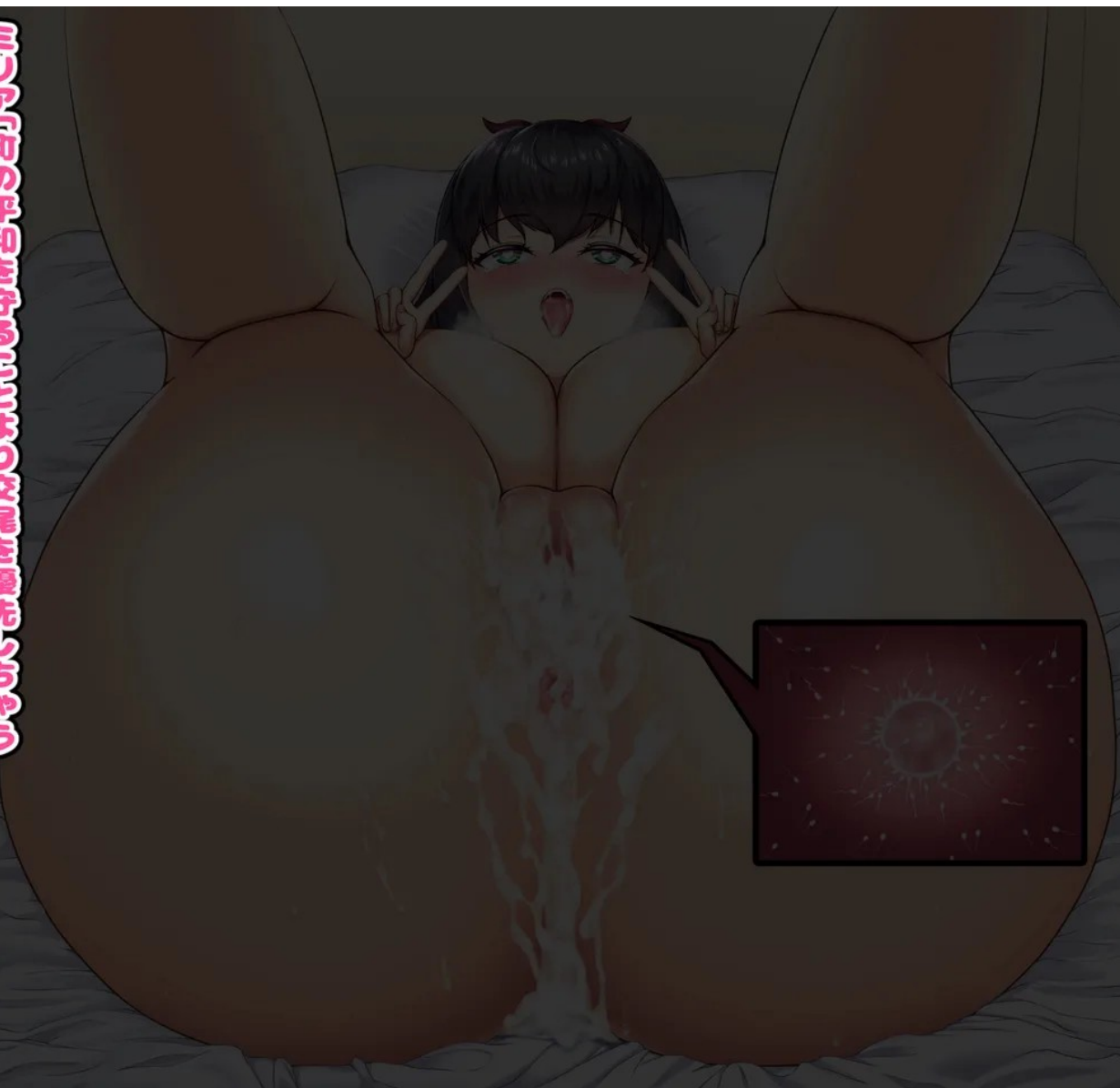
パン

おじさん「ハア♡♡♡ハア♡♡♡」 スズガキの汁が子宮に注がれちゃって、子宮が震える♡♡♡  
「離ちやうじつてやめ♡♡♡」  
ミコア「んー♡♡♡ おじさんのおちんぼがめっちゃ気持ちいい♡♡♡  
赤ちゃんの素っぴい♡♡♡ 離ちやうじつてやめ♡♡♡  
赤ちゃん「授かりたいの♡♡♡」 ミコア「めっちゃ気持ちいい♡♡♡」





どうして正義の味方に憧れた少女の夢は消え去ったのだった…。



「ミリア」町の平和を守ることより交尾を優先しちゃう  
雌魚魔法少女のミリアは悪いおじさんに一生性奉仕活動を  
続けると誓いますっ♡♡♡